



新セントラルラボトリー 概要説明

2018年6月25日

みらかホールディングス株式会社

**人口動態
社会保障財政
病院経営**

医療及び関連
技術の進歩

企業に対する
期待の変化

- 医療費増の抑制
- 老齢人口の増加
 - ・ 検査数量は増加基調
- 検査費用の値下げ要求
- 労働人口の減少

**高品質な検査を
低コストで提供**

人口動態
社会保障財政
病院経営

**医療及び関連
技術の進歩**

企業に対する
期待の変化

- 高度・高額化する医療
 - ・がんゲノム・再生医療領域など
- IT・ライフサイエンスの進歩

**最先端医療に応える
革新的な検査**

人口動態
社会保障財政
病院経営

医療及び関連
技術の進歩

**企業に対する
期待**

**ESGの取り組み
BCP対応**

- 社会・地域への貢献
- 環境への配慮
- 災害時の事業継続

求められる施設・機能

1. 自動化の追求

2. IT・AIの活用

3. 効率的な動線

4. 免震・耐震構造

5. 研究開発の充実

6. 緑を活用・太陽光発電

7. 福利厚生の充実

検査品質の向上

検査スピードの向上

コスト低減、省力化

BCP対応

将来の事業シーズ

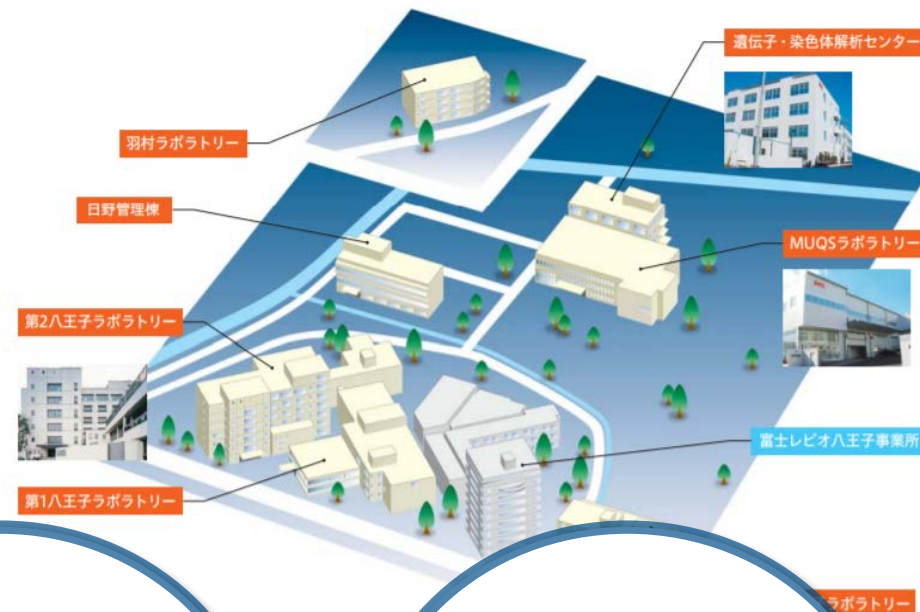
環境負荷の軽減

働きやすい職場

現セントラルラボ“群”の状況

八王子ラボ群・羽村ラボ

- 1980年から増設の繰り返し
- 複層階に渡る作り
施設間でトラックによる運搬作業
- 基幹システムも約40年が経過



**キャパシティ・
拡張性の限界**

**複雑化した
業務構造**

**施設・ITの
老朽化**

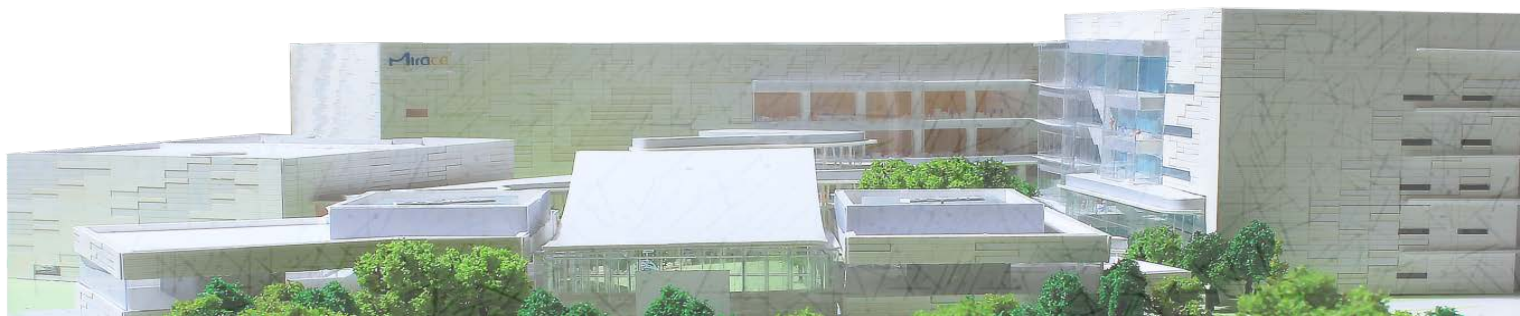
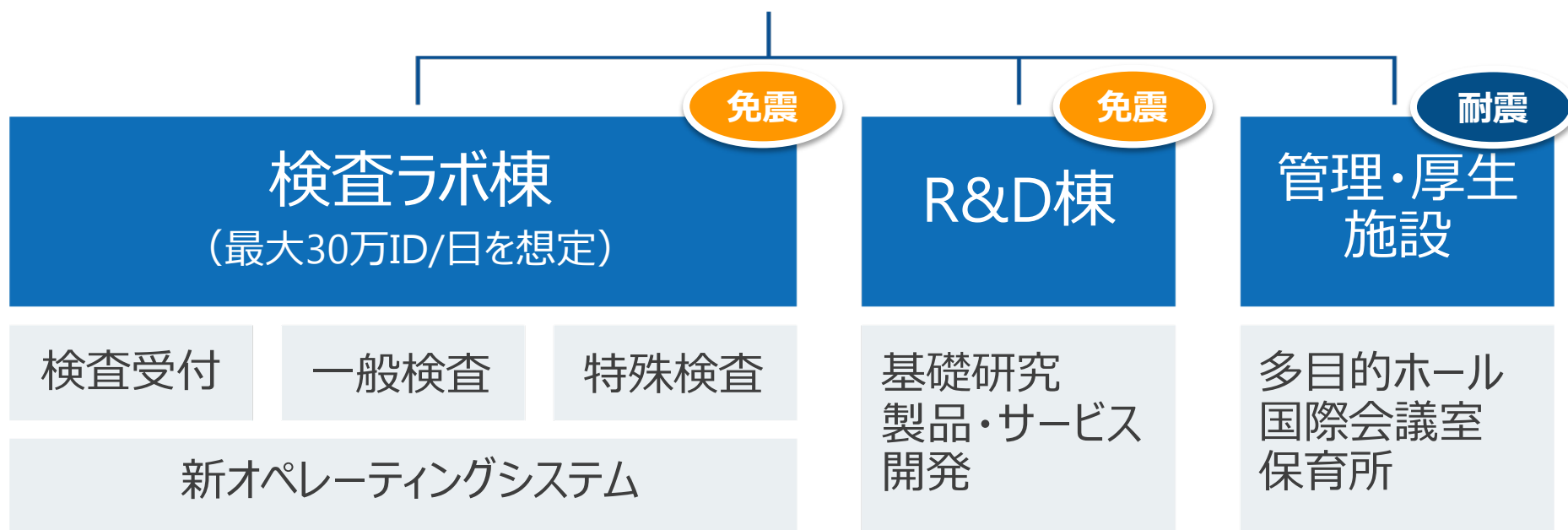
現施設では、事業の成長や環境変化への対応が困難

企業理念

医療における新しい価値の創造を通じて、
人々の健康に貢献する。

将来においても社会から必要とされる会社であるために、
圧倒的な技術力・効率性を有した
最先端の検査ラボを
みらかグループの中核施設として建築する

新セントラルラボラトリー



1. **全自動化**による効率化、24時間稼働

2. **世界最大規模**、大量処理

- 「Transform! 2020」における一般検査受託数の拡大

3. 地域デポの設置、**全体効率**の追求

※地域デポ：主に検体の受付、血清分離を行う地域拠点

- 関東圏の主要地域に今後新規設置
- 一部はSTATラボ（緊急検体対応）を併設
- 現関東圏サテライトラボは、地域デポ、STATラボへ転換

一般検査：全自動化について

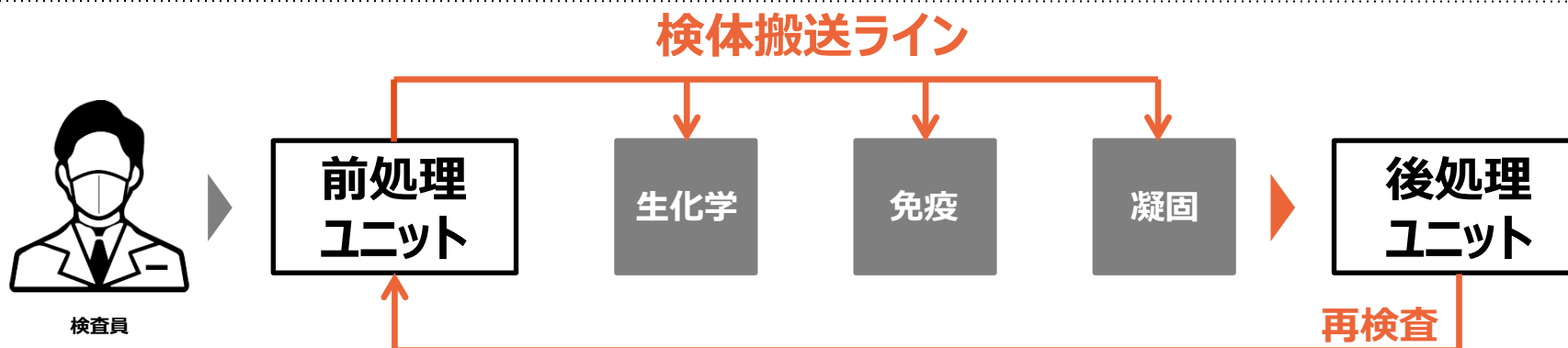
- SRL Advanced Lab. Azabu の知見を活用
- 検査品質の向上、低コスト化

検査項目ごとに人が介在せず、人為的ミスリスクを軽減

従来の検査方法

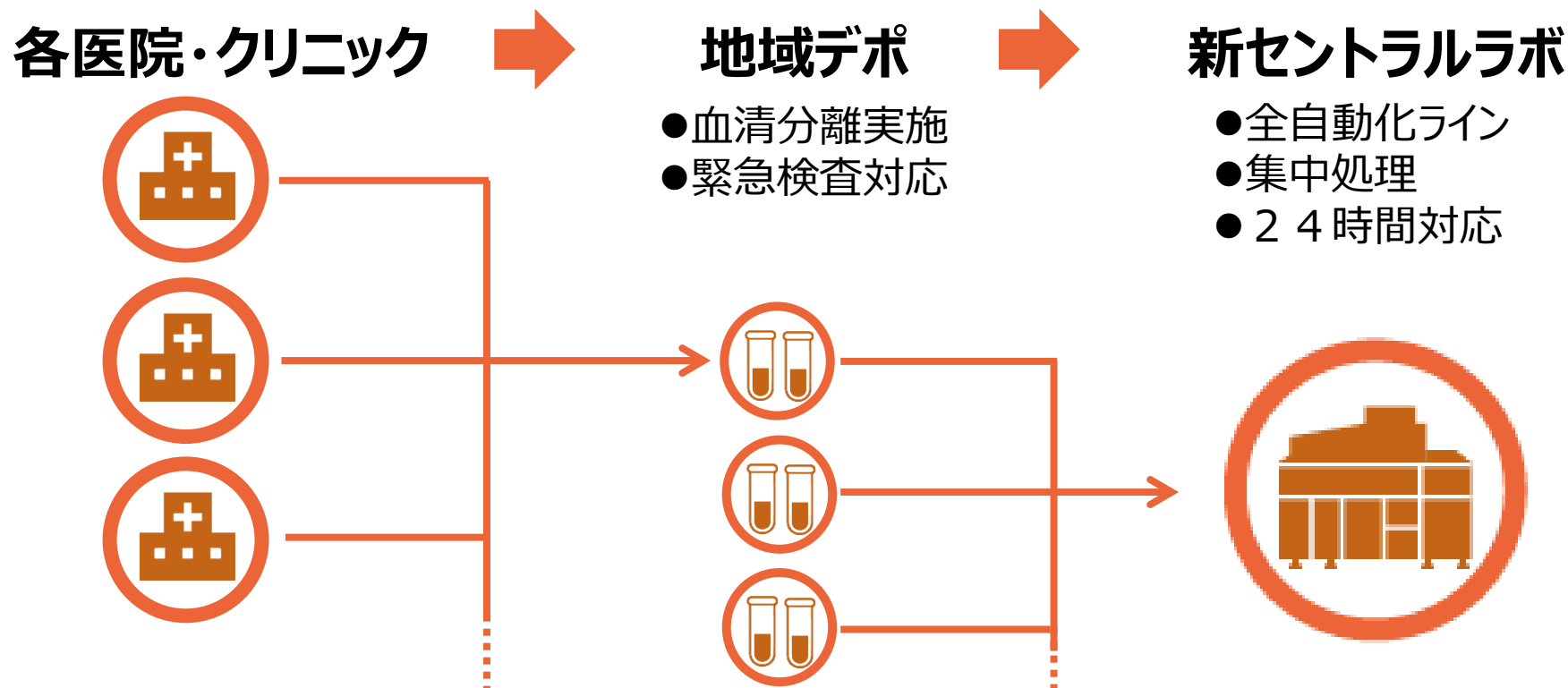


全自動化ライン

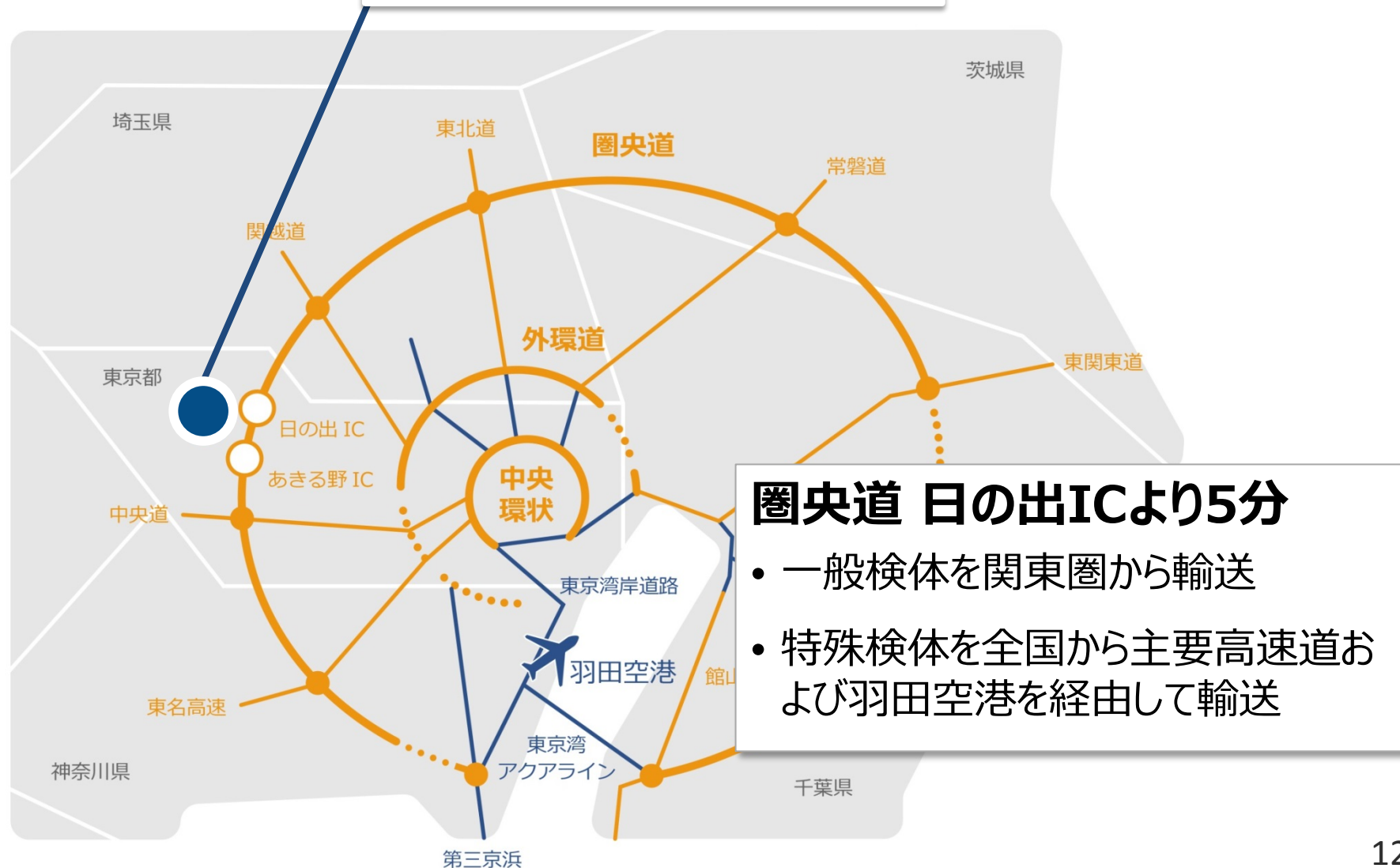


一般検査：地域デポとの連携

- 関東圏の一般検査を新セントラルラボに集約
- デポで受付、血清分離まで行い、その後にセントラルラボに搬入
- 大量処理・自動化により、低コストで検査を実施



新セントラルラボラトリー



1. **最先端の検査**に対応する設備・環境

- 最先端の検査設備を導入、高度化・拡大する検査項目に対応
- 将来の自動化/ロボット導入を踏まえ、拡張性を確保
- レイアウト変更を容易にできる効率的なスペース設計

2. **検査品質**の向上

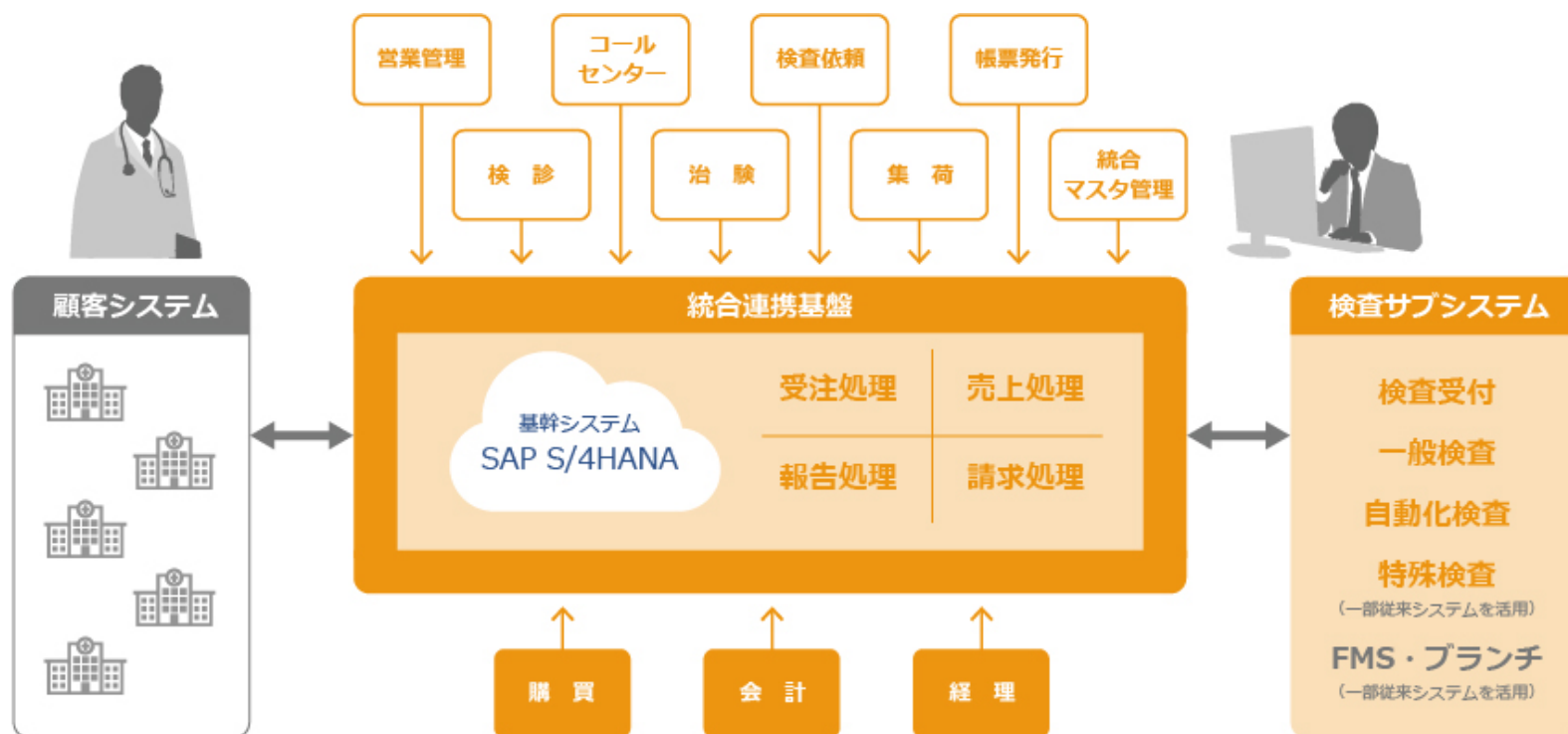
- 検体移動を最低限に、効率的かつゆとりある検査導線
- 安全性の確保と品質の向上

3. **AI技術**の導入

- 検査ラインを自動化・半自動化、圧倒的な効率性を追求
- AI・画像認識の導入による省力化（染色体、細胞性免疫検査）₁₃

新オペレーティングシステムについて

- 基幹システムを全面刷新（既存パッケージソフトを活用）
- 顧客システムとのI/Fは既存システムを活用、顧客への影響を抑制
- クラウド/自社DCを併用、ビジネス展開に合わせ最適な環境を構築



1. 将来の新事業創出につながる基礎研究

- グループ基礎研究およびオープンイノベーション推進の主拠点
 1. 革新的分析プラットフォーム
 2. 先進医療/個別化医療への対応・技術開発
 3. 医療情報/インフォマティクス/AI

2. 新規検査項目の開発・導入

- 受託臨床検査事業における新規項目
- 「開発」と「検査現場」が近接、スムーズかつスピーディな導入

3. 次世代プラットフォームの開発

- 臨床検査薬事業の次世代プラットフォーム

つなぐ

- 最先端の技術で未来につなぐ
- 多様な交流の場で世界へつなぐ
- 居心地の良い空間で人をつなぐ

みせる

- 最先端のラボで世界にみせる
- 安心と信頼の研究施設で未来をみせる
- 常にNo.1の環境で世界にみせる



はぐくむ

- 充実した厚生施設、保育所の設置で社員と新しい世代をはぐくむ
- 人にやさしい空間で会社をはぐくむ



災害時も検査を継続

検査ラボ棟

R&D棟

管理・厚生施設





総事業規模、スケジュール

新セントラルラボラトリー 概要



検査ラボ棟

R&D棟

管理・厚生施設

階層

3階建

- 1F：受付、一般自動化検査
- 2F～3F：特殊検査

4階建

- 管理棟：
受付・応接・国際会議室
- 厚生棟：
多目的ホール・研修室・食堂

床面積

約46,000m²

約10,000m²

約10,000m²

概要

- 免震構造
- 一般検査
全自動化を前提
(Advanced Lab. Azabu知見活用)
- 特殊検査
最新鋭機器を導入
将来の拡張性も考慮

- 免震構造
- みらか中央研究所
八王子より移転
- IVD事業
次世代プラットフォームの開発
- CLT事業
新規項目の開発

- 耐震構造
- 多目的ホール
国際会議可能（300席）
- 見学者の受入れ
ショールーム化
- 緑あふれる敷地
人と環境にやさしい空間

● 敷地面積：122,000m² / 総床面積：66,000m²

総事業規模



不動産	500億円
土地	130億円
建物 (付随設備を含む)	370億円

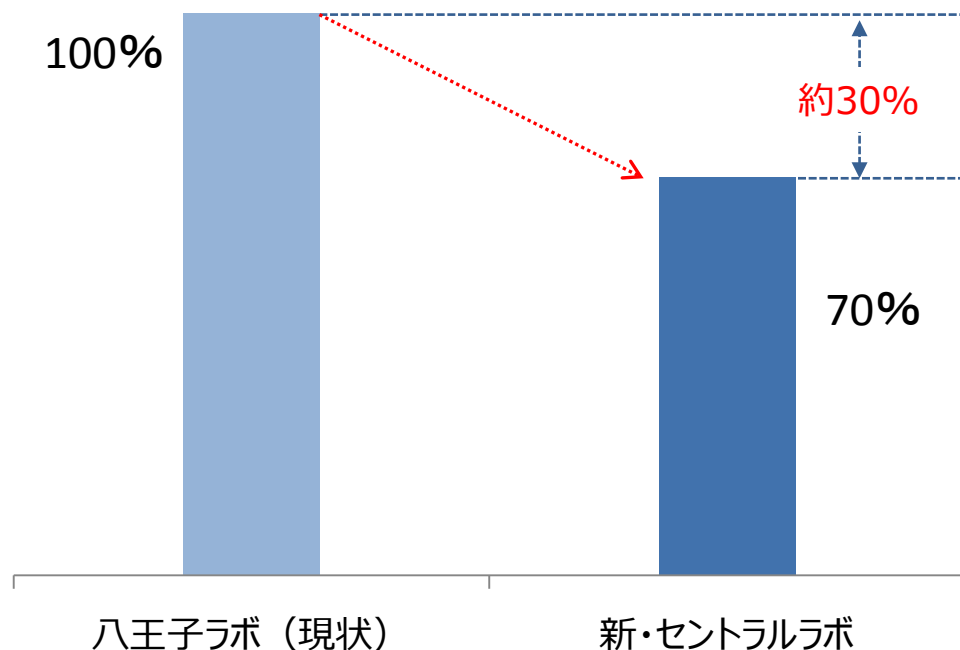
不動産ファイナンスによる
オフバランス化を軸に検討

機器・システム	250億円
機器	170億円
ITシステム	80億円

設備投資

**総事業規模
750億円**

● 一般検査の1検体あたりの固定費は約30%削減



主な改善内容

- 自動化による効率性向上
 - ・受付業務
 - ・全自動ラインによる検査
- ラボネットワークの最適化
 - ・関東圏の検体を集中処理
 - ・サテライトラボを地域デポ化

● 開業までに特殊検査、一般検査（変動費）のコスト削減も継続して検討

今後のスケジュール

建物着工：2019年2月（予定）

竣 工：2020年6月（予定）

稼働開始：2021年度初頭

			FY2019		FY2020		FY2021		FY2022		FY2023	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
検査工程	第一期	一般検査				稼働検証	本稼働					
		(特殊検査) 病理・細菌				稼働検証	本稼働					
	第二期	(特殊検査) SEQ・感染症 等					稼働検証	本稼働				
		(特殊検査) 遺伝子・RI 等						稼働検証	本稼働			

【連絡先】

みらかホールディングス株式会社

IR広報部 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。